

# 赤白

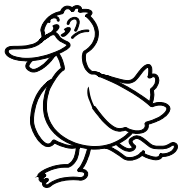
貝塚市立二色小学校 校長室だより第21号

H22年12月8日発行

貝塚市二色1-3-1

Tel 072-438-2925 Fax 438-2926

7日(火)ツートンくらぶ『思春期講座』でのお話(一部)をご紹介します。



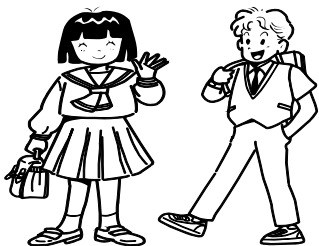
## 子どもの自立をあせりすぎいていませんか?



12月7日(火)五中スクールカウンセラー、角田美恵子先生をお招きして、『思春期講座』が開かれました。今回は特に、「学童期とはどんな時期か、学童期の子どもへの対応はどうしたらよいか」というポイントでお話してくださいました。私も参加させていただきました。

先生は、「学童期は従来、潜伏期などと呼ばれ、比較的安定期であると言われてきたが、実は“思春期”の足音が近づいて来る時期である。」とお話を進められました。また、この時期は知識・技能を身につける時期であり、学ぶということに傾斜する時期・自我の形成期であるとも言われました。

次に、「今皆さんはいかがですか？お子さんの自立を焦りすぎいてはいませんか？」と尋ねられました。自立というのは、愛着関係の確立があって、その上に「躰」があり、その先に自立がある。その愛着関係が充分ですか？と。スキンシップや愛情表現などは、ぎりぎりまで出し惜しみせず、子どもに与えてください。それは過保護(必要としていないのに追いかけること)とは全然違うのですよ、と言われました。愛着関係の確立なく躰けると、「虐待」などにもなる・・・と。



また、親と子の人間関係を築くのは至難の技であるが、だからこそ親であると。今している子どもとのやりとりはきっと将来、実を結ぶのです、と話されました。「世話」はだれでもできるが、「世話」は手段であって、親子関係を築くことこそ、親が親であるということなのだ。

そして、『なだめる』ということをしてほしい、『なだめられる』回数や内容が多いほど、そうされている間に自分をコントロールする術(すべ)を子どもは覚えるという興味深い話もされました。叱りつけるのではなく、子どもの言うとおりではなく、『なだめている』うちに、子どもは自分で考えなおしたりできるようになるそうです。・・・ついつい叱ってしまいますが・・・

また、子どもにとっては、学校は社会であり、ストレスを感じる場所である。家庭は、「ガソリン補給でき、ほっとでき、リラックスできる」場所であってほしいと。親もたくさんストレスがあるけれど、上手に小



出しして発散してほしい。家庭の対応を少し変えるだけで、子どもには結構即効性があるのだと言われました。

これからやってくる思春期を豊かに過ごすには、学童期を豊かに過ごすことが大切で、色々な“**言葉にならないサイン**”を親はつかみ、ぜひ安心させてあげてほしいと話されました。お話のあと、皆さんで交流もできました。貴重な時間でした。